

白い森人創生プロジェクト



研究開発の背景

小国町保小中高一貫教育の柱の一つである地域学習を、高校段階では「白い森未来探究学」という3年間の学びに拡充し、高校と地域がより密着した学びに発展させ、地元への愛着や誇りを養い、積極的に地域とつながり、地域活動に取り組む人材を育てることで、地域活性化の一躍を担う。

令和元年度の目標と取組状況・成果

保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による白い森学習（本町の地域学習）の段階的教育

コミュニティ・スクールの特性を活かした地域における実践的な主体との連携

地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保

本校生が主体となり運営した「地域の大人との対話会」や「全国高等学校小規模校サミット(本校主体の実行委員会主催)」などへの町内中学生の参加・参観（高校生がファシリテーター）

1年地域文化学は12講座・フィールドワーク3回・校内発表2回、町教育フォーラム（一貫教育推進協議会主催）では学校全体の取組を発表

白い森未来探究学

進路実現



山形大学工学部研究活動3名、東北芸術工科大学ファシリテーション研修19名、地区高校生地域活動セミナー8名、県探究型課題学習研究発表会6名(優良賞)、YTS山形テレビ提言の広場(県経済同友会企画)3名出演



今後の課題

- ☆ICT環境の整備
- ☆コーディネーターの配置
- ☆魅力的なカリキュラム開発
- ☆入学希望者数の拡大と全国募集
- ☆長期インターンシップ